

令和2年 第1回 議会定例会

一 般 質 問

1. 7番 増田 葉子

2. 3番 軍司 俊紀

印西地区環境整備事業組合議会

議席 7 番 増田 葉子 議員

【質問 1】 来年度の人員体制について

昨年 10 月の定例会で、次期中間処理施設整備事業の人員体制について議論がありました。たいへん大切な課題であると認識しましたので、改めて質問いたします。

- (1) 一般職の人員は、昨年 1 月 1 日現在で、再任用短時間勤務職員 3 人を含め 29 人となっているが、来年度、次期中間処理施設の担当として予定されている人員は何人か。
- (2) 来年度、土木技師など専門性のある職員は何人いるのか。

【質問 2】 時代の推移とともに

印西地区環境整備事業組合が発足した昭和 51 年当時、区域内人口は 5 万人を少し超えたところでした。小さな町村が集まって、単独では負担しきれない事業を効率的に処理するために、県にも支援をいただきながら組合を設立して事業を推進してきました。

しかし、現在は区域内人口も 20 万人に近づき、それぞれが単独でも十分に事業推進していける力をつけていると思われます。そこで、改めて一部事務組合という現在のやり方そのものを検討すべき時期に来ていると考えます。

もっとも効率的に事業推進でき、時代にあった形としてはどのようなものがあるのか、形式にとらわれずに柔軟に検討すべきと思います。これまでの検討状況を確認します。

- (1) これまでに組合の枠組みを変更するような検討がされたことはあるのか。
- (2) 一部事務組合のメリットとデメリットを改めて伺う。
- (3) 一部事務組合を解散するときは、どのような手続きが必要になるのか。

議席3番 軍司 俊紀 議員

【質問1】 廃プラスチック対策の現状と今後について

中国などの外国政府による廃プラスチックの輸入規制は、国内の廃棄物業界や資源業界を揺るがし、製品プラスチックなどのリサイクルに取り組んできた自治体にも影響を及ぼしている。

一方、国では昨年5月には環境省が第4次循環型社会推進基本計画に基づくプラスチック資源循環戦略を策定しています。

印西地区環境整備事業組合では、現状廃プラスチック対策に対して、どのように取り組み、どのような方針で対処していこうと考えているのか。

(1) 構成自治体と話し合いはされているのか。

(2) 現状と今後をお聞きする。

【質問2】 次期中間処理施設整備事業について

組合では昨年7月から令和6年3月29日までの期間で「次期中間処理施設整備事業総合支援業務計画」を締結しているが、事業の進捗はどうなっているのか。

(1) 施設整備基本設計について
施設整備の課題対応は終わったのか。

(2) 施設運営維持管理事業について
現状事業費の把握。整理状況はできているのか。

(3) 環境アセスメントについて

① 県条例アセスでは対象事業として、基本事業と複合開発構成事業、関連対象事業を定めているが、今回の対象事業は基本事業だけか。

② 環境影響評価準備書の作成が令和2年度から実施されることとなっているが、審議会はいつ頃から、どのような構成員で開催されるのか。

③ 事業計画の決定と環境アセスメントの実施は一致するのか。

【質問3】合葬墓の整備について

組合では、今年度、合葬墓基本計画策定に関わる検討会を実施している。

10月の定例議会でも聞いたが、パブリックコメントの状況も含め、現状と今後について再度確認する。

【質問4】指定廃棄物の処理について

組合が一時保管している、東京電力福島第一原発事故に伴い発生した、印西クリーンセンターの汚染焼却灰（指定廃棄物）の処理に関しては、国により設置されることとなっている長期管理施設の設置の見通しが引き続き立っていない状況です。

組合ではこの現状をどのように捉え、今後、近隣市町村と対応していくのか。現状と今後をお聞きする。